

# 「(仮)潔癖のBL劇」

第一話

—初稿—

2023/3/18

米俵

〈人物表〉

小林 壮太 (15) 高校一年生

田中 聡 (16) 高校一年生・壮太の同級生

小林 寿梨 (18) 高校三年生・壮太の姉

〈第一話 ログライン〉

・お調子者で初心な壮太は、文化祭の演劇（BL）の主演になり、後から内容を  
知り後悔するが、姉と聡に煽られ覚悟を決める話。

〈ねらい〉

・ラブコメディーを書く

1. 壮太の家・階段（夕）

二階建ての一軒家。小林壮太（16）階段を勢いよく上がってくる。その後ろを田中聡（16）がついていく。聡の顔は映らない。足元のみ。

壮太 「姉ちゃん、姉ちゃんいるー？」

返事はない。

2. 壮太の家・寿梨の部屋（夕）

シンプルな部屋に大きな本棚。本棚の中には、動物図鑑や植物図鑑と共にBL本が大量に並んでいる。

小林寿梨（18）あか抜けた容姿。美脚が目立つよ

うな部屋着で携帯をいじっている。

勢いよく寿梨の部屋のドアが開いて、

壮太 「なんだ姉ちゃんいるじゃん。聡、入っ——」

聡の方を向こうとした壮太の首が締められる。

寿梨 「壮太、ノックしろって言ってんでしょ」

壮太、苦しさに寿梨の腕をタップする。

寿梨、気が済んだ様子で元いた場所に戻りながら、

寿梨 「何の用？」

壮太、首をさすって、

壮太 「姉ちゃん、BL本貸してくんない？」

寿梨 「なにあんた、ついに目覚めたの？」

寿梨、意地悪い笑みを浮かべる。

壮太 「ちっげーよ。演劇でやんだよ」

寿梨 「演劇？ あんた演劇部だっけ？」

壮太 「いやいや、文化祭でやんの」

壮太、ゆっくりと寿梨の本棚に近付く。

寿梨 「は？ 文化祭で？ BL？」

壮太、寿梨の本棚を探し出す。

寿梨 「そこ触んな。まだ貸すって言ってない」

寿梨、壮太に座れと指示を出す。

壮太、しぶしぶ寿梨の前に正座する。

寿梨 「文化祭でBLってどういうこと？」

壮太 「あー……と。多様性とLGBTとで、俺が——」

聡、壮太が話すのを遮って、  
聡 「すみません。そちらについては僕の方から説明しても宜しいでしょうか」

素早く壮太の隣へ正座する聡。髪をぴっちりとし七三にしており、瓶底眼鏡をかけている。

寿梨、聡に驚いて、

聡 「びっくりした。いたの……」

聡 「お邪魔しております。田中聡と申します」

聡、深々とお辞儀する。

聡 「あっ、小林寿梨です」

聡 「寿梨様、宜しくお願ひいたします」

聡 「様はやめて。なんかSM嬢みたい」

聡 「ピツタリだろ。暴力女」

聡、寿梨、壮太を睨む。

聡、瓶底眼鏡をくいと上げて、

聡 「早速ですが、事の経緯を……。僕たちの高校では一年生は演劇をするのが恒例でして」

聡、眼鏡をくいと上げて、

聡 「今年のテーマは多様性」

聡、こっそりと足をくずす壮太。

聡 「そこで僕たちのクラスではLGBTを取り上げようという話になりました」

聡 「それでBL？ 少し安易な気もするけど……」

聡 「すみません。僕が提案しました……」

聡、声小さくなり、下を向く聡。

聡 「おいおい。姉ちゃん。聡泣かせんなよなー」

聡 「うるさい。泣いてないでしょ」

聡 「それで……今回、僕が脚本を書くことになり、ご協力頂けないかと思ひ伺いました」

聡 「協力？」

聡 「だからさ、本貸してって話。俺も参考にしたいし」

聡 「なんであんたが参考にすんのよ」

聡 「壮太くんは演者なので……役作りをしたいと仰っていました」

寿梨 「は？ 壮太が？ 村人役？」

壮太 「おいおい、馬鹿にすんなよ。主役だぞ」

寿梨 「嘘でしょ。まさか立候補したの？」

壮太 「推薦だよ」

寿梨 「誰の」

壮太、照れくさそうに、

壮太 「女子の」

寿梨 「あんた、女子に虐められてんの」

壮太 「ちっげーよ。俺の魅力に気付いてる女子がいんだよ」

寿梨 「なんだ煽てられただけか」

壮太 「だから、ちげーって」

聡 「寿梨さん、ご存じのようにBLには攻めと受けがいます  
て……所謂王子様側である攻めはすぐに決まりました」

寿梨 「えつまさか、壮太が……」

聡 「いえ、姫側である受けですね」

聡、自信ありげに眼鏡をくいとあげる。

壮太、立ち上がりながら、

壮太 「いやいや聡、言い方が悪いって。王子と姫じゃなくてさ、  
なんつーの。ほら、W主演ってやつよ」

壮太、ポーズをとってみせる。

寿梨、立ち上がった壮太をじっと見る。数秒目を閉  
じて、もう一度壮太をじっくりと見る。

寿梨 「悪くないかも……」

寿梨、聡の手をとって、

寿梨 「聡くん、協力しましょう。良い脚本にしよう」

聡 「寿梨さん、ありがとうございます。心強いです」

聡の眼鏡が光る。

寿梨 「じゃ、どういう方向でいか相談しましょうか」

聡、寿梨、話し込む体勢。

壮太 「姉ちゃん、俺は？」

寿梨 「気になるの読んでいいから」

壮太、嬉しそうに、

壮太 「了解」

壮太、本棚をあきり、一冊取り出し、読みだす。

× × ×

壮太、床に本を叩きつけて、

壮太 「なんだよ、コレ」

驚く聡と寿梨。

寿梨 「あんた何してんの」

壮太 「せ、せ、せっ……下半身出てんじゃねーか」

寿梨、壮太が投げた本を拾って、

寿梨 「あー、童貞くんはこの内容はきつかったか」

壮太 「童貞とか関係ねーだろ」

寿梨、笑いながら、

寿梨 「ごめん、ごめん。流石に劇では下は出ないだろうから安心して」

壮太 「当たり前だろ！」

聡 「壮太って童貞だったんですか？」

聡の眼鏡が光る。

壮太 「だから、そこは関係ないって——」

聡 「彼女は？」

寿梨 「いたくないよ」

壮太 「姉ちゃんが答えんなよ」

聡 「そっか、そうなんだ」

壮太 「なんでちょっと嬉しそうなんだよ。あ、お前もか？ 聡も彼女いたことないのか？」

聡 「……そうですね」

壮太 「なんだー。そっか、そっかー。仲間か」

壮太、聡の背中をバンバンと叩く。

寿梨 「聡くんもさ、こういうの苦手なの？」

エロシンの載ったページを開いて見せる。

壮太 「おまつふざけんなよ」

壮太、顔をそむける。

聡、まじまじと見て、

聡 「平気です。興味深い……」

寿梨 「壮太が世にも珍しい潔癖くんだけか。姉は弟の行く末が心配だよ」

壮太 「ほっとけよ。こういうのはな、時間が解決すんだよ」

聡 「キスシーンぐらいはやってもらおうと思ってましたが、やめときますか？」

壮太 「は？」

寿梨 「おー。いいね、いいね。キスとかあれば盛り上がるね」

聡 「もちろん、フリですが……」

寿梨 「でも、潔癖くんにはハードル高いかもねえ。例えフリでも」

壮太 「馬鹿にすんなよ。それぐらい任せろ」

寿梨 「言ったね？ 楽しみだな、文化祭絶対見に行くから」

聡 「壮太、絶対に成功させましょう」

聡、本棚の前に立って、

聡 「寿梨さん、この中でライトなものはどれでしょうか」

寿梨 「あー、これとこれ……この辺りかなー」

聡 「ありがとうございます」

聡、壮太へ本を渡して、

聡 「これを読んで、勉強しておいて下さい」

壮太 「あ、いや……」

聡 「大丈夫です。心配するようなものは載っていません」

壮太 「そっか、分かった」

聡 「では、そろそろ……。寿梨さん、今日はありがとうございます  
いました」

寿梨 「脚本出来たら読ませてね」

聡 「もちろんです」

### 3. 駅までの道（夕）

壮太、聡、並んで歩いている。

壮太 「あのさ、聡。今から劇の内容を変えるってのは」

聡 「ないですね」

壮太 「時代劇も面白いと思うんだけど」

聡 「ないですね」

壮太 「主役が変わるってことも——」

聡 「ないですね」

聡、少し考えて、

聡 「嫌……ですか？」

壮太 「そんなわけないじゃん」  
聡 「それなら良かった」  
壮太 「……」

#### 4. 駅・改札前（夕）

人込みの中、向かい合う二人。

聡 「そういえば、さっきの時代劇の話ですが……」

壮太 「もしかして、変えられたり？」

聡 「それはないのですが……時代背景を変えるというのは面白くありません」

壮太 「あっ、あー。そういうね」

聡 「歴史上の人物のBIも沢山ありますし。アイデアをあまりがありがとうございます」

壮太 「聡、結構詳しいのか？」

聡 「全然ですよ」

眼鏡をくいと上げる。

聡 「壮太、いい劇にしましょう」

壮太 「そうだな、いい劇にしよう」

聡を見送る壮太。

壮太の背中。

（続く）